

戦後日本せんごにほんの平和へいわは、

憲法9条けんぽうじゅうじょうではなく、

安保体制あんぱうたいせいのおかげではないのか？

安保条約はアメリカから押し付けられた軍事条約

第2次世界大戦が終わり、世界中の人びとがもう2度と戦争は起きてほしくないとい心から願っているとき、連合国の内部ではすでに「冷たい戦争」（冷戦）が始まっています。反ファシズムを旗頭に「枢軸国」（日本、ドイツ、イタリアなど）と戦った連合国は、いまはなきソ連を中心とする社会主義国家群（東側）と、アメリカ・イギリスを中心とする資本主義国家群（西側）に分裂し、軋轢かんれきが生じていました。

両陣営とも、「実際に戦火を交えることはなくても、「相手は機会さえあれば自分に攻め込んでくるに違いない」と主張し、攻撃されるくらいなら、こちらから先に攻撃したほうがよいと考え、互いに核兵器を含む武力の増強に狂奔し、いたるところに軍



事基地を設けました。自分の陣営の中小国家が、そこから離脱しようとしてもすれば、さまざまな干渉や、場合によると実際の武力を行使して押さえつけるなどの行為を続けました。「熱い戦争」がいつ始まってもおかしくないような時期が続いたのです。

その時期、2つの陣営は相手に対抗するために、多くの軍事同盟を結びました。代表的なのが、米英を中心とする北大西洋条約機構（NATO）^{*1}と、ソ連を中心とするワルシャワ条約機構^{ワルシャワ条約機構}でしたが、それ以外にも、東南アジア諸国のSEATO（東南アジア条約機構）や、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドのANZUS条約などの地域的軍事同盟、そして、米日、米韓、米フィリピン、米台など、さまざまな二国間の軍事同盟がつけられました。

日米安全保障条約は、まさにこうした冷戦の激化の中で、日本に対する講和条約と引き換えに、アメリカによって有無を言わず日本に押し付けられた軍事条約でした。これによって、日本国憲法の適用範囲から外されて「独立」できず、依然として米軍政下におかれた沖縄はもちろん、日本の全土に軍事基地を配備し、さまざまな特権を行使できる体制をアメリカはつくり上げたのです。現在の日本国憲法は「押し付け憲法」だ、という批判がよく聞かれますが、押し付けということなら、まさにこの日米安保条約について指摘されなければならないでしょう。

アメリカの戦争に日本を巻き込む安保条約

日米安保条約が締結されたのは1951年ですが、前年に「熱い戦争」として始まった朝鮮戦争（50年6月～53年7月休戦）は、すでに休戦の話し合いが開始されてい

ました。また、ベトナム民主共和国の独立戦争としてフランスと北ベトナムの間で戦われた第1次インドシナ戦争（46年～54年）も54年には、休戦協定が成立し、中国・インド間では周恩来・ネルーによる平和五原則の共同声明も発表されていました。このように日米安保が締結されたとき、世界には緊張緩和・平和共存の空気が広がり、明るい希望がみえていました。しかし、米ソ両陣営は、こと軍事同盟、軍事条約に関しては、つぎつぎと新しいものを結び、強化し続けました。

1960年に始まったベトナム戦争は、トンキン湾事件を契機に米軍の攻撃が激化すると、沖縄をはじめ日本各地の基地から、ベトナム攻撃のための軍隊・航空機・艦船が出勤し、日本はベトナム戦争を継続するために欠かせないアジア最大の物資補給の拠点となりました。

ベトナム戦争が、アメリカにまったく大義のなかった戦争であったことがいまでは明らかになっていますが、日本政府は、アメリカのベトナム侵略を無条件・全面的に支持しました。そのときの根拠は、「日米安保条約が存在している以上、日本はこの戦争に中立ではあり得ない」（椎名外相の国会での言明）というものでした。

安保条約はアメリカの戦争を支えるものであり、かりにそれがなければ、関わりなくともすんだはずの戦争に日本は加担せざるを得ません。戦後日本の「平和」が安保条約のおかげであつたどころか、それによって、アメリカの戦争に巻き込まれていったのです。

日本とアメリカ、この太平洋を挟む2つの国が、世界の政治・経済・軍事など、さまざまな面で、善きにつけ悪しきにつけ、重要な役割を果たしているのは事実です。

*1 北大西洋条約機構（NATO）…49年に発足したアメリカとヨーロッパ西側諸国で結成された軍事同盟。ソビエト連邦を中心とする共産圏（東側諸国）に対抗するための集团的安全保障体制としてスタート、2007年現在26カ国が加盟。

*2 ワルシャワ条約機構…55年に発足したソ連を盟主とした東ヨーロッパ諸国が結成した軍事同盟。91年解散。

*3 日米安全保障条約…51年、日本とアメリカとの間で締結された条約。60年に改定。

*4 第1次インドシナ戦争…46年から54年にかけて、フランスと北ベトナムの間で戦われた戦争。ベトナム民主共和国が独立した。第2次インドシナ戦争（1960年～75年）は、いわ

ゆるベトナム戦争をさす。第3次インドシナ戦争は78年以降のベトナム・カンボジア戦争、カンボジア内戦、中越戦争を指す。

*5 周恩来・ネルーによる平和五原則…54年、周恩来首相とネルー首相の会談で合意された国際関係についての原則。領土・主権の相互尊重、相互不可侵、相互内政干渉、平等互惠、平和共存の5つの原則。周恩来（1898年～76年）は中華人民共和国建国から死去まで首相を務めた。ネルー（1889年～64年）はインドの初代首相。

*6 トンキン湾事件…64年8月、北ベトナムのトンキン湾で北ベトナム軍の哨戒艇がアメリカ軍駆逐艦に2発の魚雷を発射したとされる事件。これをきっかけにアメリカは本格的にベトナム戦争に参入、北爆を開始した。71年、「ニューヨーク・タイムズ」の記者が政府の機密文書入手、トンキン湾事件はアメリカが仕組んだ謀略だったことを暴露した。当時国防長官であったマクナマラも後に認め

しかし、その両国の関係を定めているものとも基本的な約束が、過去半世紀以上にもわたって、軍事一本やりを基本とした「日米安全保障条約」だったということも、おどろくべき事実です。国の基本法である憲法の前文で平相国家を謳っている国のありようとしては、大変な「おどろき」現象です。

ソ連圏が崩壊し、冷戦構造がなくなるのは90年代初めですが、「敵」だと想定されていた陣営が消滅したのですから、それに対抗し、それからの侵略を守るためだとしてつくられた日米安保条約はその歴史的な役割を終えたはずですが、その時点で、軍事一本やりで定められ、おどろかされた日米の基本関係をあらためて考え直し、日本国憲法に基づいた平相と友好の関係を立て直す、というのが双方の政府がまず考え、取り組むべき課題だったはずですが、

ところが、ソ連脅威論の代わりに今度は、北朝鮮の脅威だとか、イラクのような「ならず者国家」の存在とか、中国の軍事力増強の脅威だとかという、新たな理由がもち出されてきました。しかも、現在の安保体制は「在日米軍再編」によって、さらに強化、変質し、条文にある「極東の範囲」規定などは無視されて、世界のどこでも、アメリカと日本がともに出兵・軍事行動をする新たな軍事同盟に変容しつつあります。すでに、第二次世界大戦後日本が一度も行なつてこなかった戦地への自衛隊の派兵がイラク戦争で行なわれています。この事実が日米安保条約によって、日本の平和が保障されるどころか、日本は今後、アメリカの行なうどんな戦争でも、協力・出兵するような立場におかれていることを示しています。

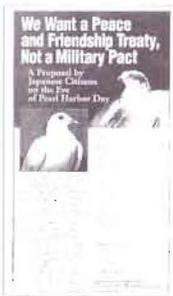
日米安保条約をなくし、日米間に平和友好条約を

日米安保条約を破棄したら、日本とアメリカとの関係が悪化し、政治的にも経済的にも日本はきわめて困難な立場に陥るといふ主張があります。安保条約を破棄したら、日米関係は対立するのでしょうか。安保条約を破棄することがけしからんといって、米軍が攻撃してくるならともかく、私たちは、安保条約を破棄して、アメリカと対決しようというのではないのです。

世界の中で日本とアメリカという2つの国が果たす役割は非常に大きなものがあるはずですが、にもかかわらず、その二国間の関係を規定するものとも基本的な条約が、安保条約という「軍事条約」だけだということとは、じつに異常なことです。

日本の隣国、中国との間には、「日中平和友好条約」という条約が結ばれて、二国間関係の根本を規定しています。ところが、日本とアメリカの間には、そういう条約は存在しません。私たちは、アメリカとの間に、軍事条約ではない「日米平和友好条約」を結ぼうという提案もしています。すでに、その条約案文(123ページ参照)も用意しています。

各国との間に、軍事条約ではない、「平和と友好」の条約が結ばれてゆくことこそ、世界から敵視と対立をなくし、平和と安全を築いてゆくための基本です。危険だといわれる北朝鮮と日本との間には、なんの条約もないどころか、通常の国交関係さえ樹立していません。第2次世界大戦で敗北し、すべての植民地を放棄した日本は、それぞれの国々にと、集団的に、あるいは個別に講和条約などを結んで正常な国家関係を



「ニューヨーク・タイムズ」紙に掲載した「軍事条約でなく、平和と友好の条約を望む」という全面意見広告(1997年12月6日)。日本の市民によるカンパによって実現した。

つくりあげましたが、ただ一つ、北朝鮮とだけは、国交関係が正常ではないのです。これもきわめて異常な事態です。繰り返しますが、軍事条約を止め、平和と友好の条約による国家関係をつくろう、それが私たちの主張です。

(吉川勇一)